

第106回 令和7年10月20日（月）

「哲学を学ぶこと。」

人間は社会的な動物です。細胞のように単体では生きていくことができません。しかし他人の目ばかりを気にして生きることは「他者の生」を生きることに外なりません。自分の人生を自分らしく生きるためにはどうすればいいのでしょうか。

答えはありません。実はこの問いについて人類はずっと考え続けています。その過程を哲学と言い、多くの哲学者が自分なりの解釈をしています。結論と呼べるものがないゆえに、今でも哲学者が研究を続けています。

自分の意見が否定されることと、自分の存在を否認されることは違います。海外の人は大いに意見を戦わせますが、これは両者が違うということが明確にわかっているからです。日本人はこの境界が曖昧になりがちです。自分の居場所を失うのが怖くて自分の意見を言うことができない人がたくさんいます。私自身言いたいことの半分も言えてないかもしれません。

これが逆に自分の居場所を減らすことにつながってしまうこともあります。自己主張せず自分の良さを一部分しかわかってもらえなかった、自分が思うような人間関係が作れなくて、かえって居づらくなってしまった。

多くの場合そのようなことが続くと人間関係が生じる場に行くことが怖くなってしまいます。結果孤独になりがちですが、そうすると孤独な自分を他人はどのように見ているのか、余計ネガティブになってしまいます。

多くの哲学者は一人で長い時間答えを追い求めてきました。問答中心の古代ギリシャの哲学者もいますが、中には一人で考えすぎて精神に異常をきたした哲学者もいます。

いのちを懸けて後世の人間に、自分の価値観やどう生きるべきかを伝えようとした、その結晶が哲学なのです。

孤独であったり、人間関係がうまくいかなかったりするのはあなただけではありません。偉大な哲人も同じ悩みを抱えていましたし、どんなに明るく見える人でも常に幸せなわけではありません。

哲学書を読むと心に刺さる言葉もありますが、一生涯かけてこのようなことをずっと考え続けることを自分だったらできるのか、疑問に思うこともあります。

それだけ悩みが深く、哲学を極めるモチベーションが高かったのだらうと思います。

哲学者が悩むのだからうまくいなくても当たり前ではないでしょうか。